

東京バッハ合唱団 月報

[第 594 号] 2011 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax 専用：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.594

December 2011

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

いよいよスタート!! 「バッハ4大合唱曲」連続演奏 《口短調ミサ曲》日本語演奏・初演

12月3日(土)2時開演、杉並公会堂



東京バッハ合唱団
2012年7月 創立50周年

東京バッハ合唱団の創立 50 周年を記念して、バッハの4大合唱曲(口短調ミサ曲、クリスマス・オラトリオ、マイ受難曲、ヨハネ受難曲)を、本年より3シーズン連続で上演してみようとする企画が、いよいよ 12 月 3 日の《口短調ミサ曲》をもってスタートします。

私たちは、教会カンタータを中心としたバッハの合唱曲を、おもに日本語歌詞によって上演し続けてきましたが、このバッハの最高傑作とも言うべき《口短調ミサ曲》に関しては、過去3回の上演機会のいずれにおいても、

ラテン語原詞での演奏をづけてきました。

千数百年の伝統と権威をもつミサ聖典に手を加えることへの躊躇とともに、作曲家バッハが、母語ドイツ語によらず、普遍的言語を選択した意図を重んじざるをえなかったという切実な理由があります。

バッハは、キリスト教世界の音楽の中心に常にありつづける「ミサ曲」の歴史の中に、その同じテキストを用いて肩を並べようと望んだに違いありませんし、ローマ・カトリックの典礼の歌詞をもって、ザクセンの外、帝国の外に向かっても、後世にひろく己の音楽を知らしめようとしたのかもしれない。作品の偉大さの背後には、バッハの並外れた執着があったことは確かです。

が、ドイツ語ミサを定着させようと努力したドイツ人ルターの精神をも、ドイツ人バッハは継承しています。ヨーロッパ諸国民にとっての普遍言語は、東洋の異教国の一般人にとっての普遍言語ではありません。ここにこそ、日本語での演奏を試みる意義があるはずで

《口短調ミサ曲》の上演用訳詞を終えたことによって、東京バッハ合唱団は、大村恵美子の半世紀を費やした末に、伝承不完全作品を除くバッハのほとんど全ての合唱作品の上演用訳詞を持ったこととなります。

《口短調ミサ曲》日本語演奏の初演に、ぜひとも多くの皆さまが立ち会われますことを願ってやみません。

《口短調ミサ曲》日本語演奏・初演

東京バッハ合唱団 創立 50 周年記念企画 [1]
(第 106 回定期演奏会)

日時 2011 年 12 月 3 日 (土) 午後 2 時開演
(開場 1 時 30 分、終了 4 時 30 分ごろ予定)
会場 杉並公会堂大ホール (荻窪駅北口から徒歩 7 分)

ソプラノ：光野孝子

アルト：佐々木まり子

テノール：鏡 貴之

バス：新見準平

オルガン：草間美也子

オーケストラ：東京カンタータ室内管弦楽団

合唱：東京バッハ合唱団

指揮：大村恵美子 (訳詞)

前売券 3500 円 (発売・東京バッハ合唱団事務局)

電話：03-3290-5731 ファックス：03-3290-5732

メール：bachchortokyo@aol.com

当日券 4000 円 (全席自由席、発売 1 時 30 分)

後援会のみなさまには、先月の月報 (10 月・11 月合併号) に同封して、ご招待状をお送りいたしました。ぜひともご来聴いただけますよう、ご案内いたします。

なお、手違い等でお手元に不着の場合がございましたら、ご連絡いただき次第、至急お送りいたします。お申し出ください。

50 周年記念企画、第 2 シーズン

O B / O G のみなさん、出番です・・・!

企画 [2] (第 107 回定期演奏会)

- ・《クリスマス・オラトリオ》第 1 部・第 2 部・第 3 部
- ・カンタータ第 71 番《主はわが君》

2012 年 冬、会場選定中

企画 [3] (第 108 回定期演奏会)

- ・《マイ受難曲》

2013 年 3 月 30 日 (土)、紀尾井ホール

< 練習スケジュール・楽譜など、詳細は 3 頁参照 >



杉山 好 先生を送る

大村 恵美子

さわやかに澄み渡った10月29日、土曜の午後、学園までの沿道は、白いすすきの穂にあふれていました。

9月10日に他界された杉山好(よしむ)先生にお別れを告げようと、多摩郊外の恵泉女学園大学チャペルに多くの方々が集いました。私たちに微笑みかける先生のお写真は明るく、とりまく花々も清楚でやさしく、荒井献氏のお話も、杉山先生の、涙もろく、献身的な、人びとに喜びを惜しげもなく分け与えられたお人柄を、くっきりと描き出してくださいました。

木田みな子さんのオルガン奏楽は、コラール《おお神よ、汝慈しみに富みたもう神よ》にもとづくパルティータBWV 767が、それぞれ前奏と後奏に配されました。杉山先生の名訳(歌詞:前奏1,6,7節、後奏8節)を味わいながら、聴き入らせていただきました。

私は、ひと月後にせまった h: Messe の練習のため、礼拝だけで辞さなければなりませんでしたが、つづいて開かれた茶話会では、先生のご友人、愛弟子の方々の、心あたたまるお話が、長時間にわたり途切れる間もなく、語り合われたことでしょう。身につけられた豊かなお宝と、主にある清く気高い友情の環にとりまかれた、そのご生涯が、この一日に色濃く再現されたことを思い、また先生の限りないお励ましのまなざしが、これからも私たちに注がれることを心に深く期して、会場を退出してきました。(主宰者)

在りし日の你好生(*)

大村 健二(団員)

1970年代に入って間もないころ、当合唱団でもバッハのモテットを本格的に取り上げようということになって、杉山先生を囲んでのゼミ合宿を、八王子のセミナーハウスで行ないました。入団間もないころだったはずですが、どういうわけかゼミ係りを仰せつかり、先生との打ち合わせからゼミの進行役まで引き受けました。“入れ込みスギのスギやま先生”の面目躍如で、夜の部の講義がいつ

になっても終わりません。そこで、進行役は「先生、これからトランプの時間ですので、そろそろ」と、申し上げたのを覚えています。これが先生との幸せな出会いの初めでした。

杉山先生の訳によるW・フェーリクス『バッハ 生涯と作品』(国際文化出版社)が世に出たのは1985年のことでした。バッハ生誕300年にあたる年で、この好著の発行をふくめ、多くの来日公演があり、さまざまな関連プログラムが組まれましたが、私たちが西武百貨店スタジオ200との提携企画で《マタイ受難曲》を大々的に取り上げたのも、その一環でした。もちろん、杉山先生にもご登場いただきました。

それから15年を経た西暦2000年は、こんどは歿後250年ということで、ふたたびの「バッハ年」を迎えます。杉山先生が、テルデック社によるバッハCD全集「BACH 2000」のために、全声楽作品の歌詞訳出を完成させたのもこの年に向けてのことでしたし、私たちがブライトコプフ社の協力を得て「バッハ・カンタータ50曲選」の楽譜シリーズをスタートさせたのもこの年でした。

折りしも講談社から文庫化されたばかりの、上記のフェーリクス『バッハ』を手土産に、杉山先生がわが家をご訪問くださったのは、まさに全集の完訳を果たし終えられたばかりの高揚した気分のなかでのことでした。赤と黄色に染まった紅葉の桜の並木道を歩きながら「ドイツの秋のようです」とおっしゃったのを覚えています。文庫版『バッハ』の表紙裏と見返しに、その日先生が書き込んでくださったサインが残っています。今年もそろそろ拙宅わきの並木が色づくころです。

バッハ合唱団のBACH 2000に向かったの / 一層の飛躍と発展を祈念しつつ / 1999年11月25日、晩秋の光のどけき / 世田谷の御新居にて / 大村健二様 恵美子様 / 訳者 古希・你好生

Jesu juva, / ut vivat et floreat / Chorus Bachius Tokioensis!
Soli Deo Gloria! / 25. Nov. '99 / J. S. / (p.179 & 338)



*)「你好生」は、先生お好みの雅号。「ニイハオセイ」とでも読むのでしょうか。



バッハ合唱団をとりまく人々

[第7回]

大村 恵美子

団員。これまでに在籍した団員は数知れませんが、ここでも『三十年の歴史』中に記名された方々に限ってとりあげることにしたら、男 28 名、女 25 名、計 53 名となりました。この方々も、たまたま同書にお名前をとどめる機会があったわけで、その他にも次々と懐かしいお顔が思い出され、キリがありません。

また、30 年以後の方々は来るべき機会にゆずることにさせていただき、今回の 53 名についても、あまりに情報が多すぎるので、入団年のみを入れ、あとはいっさい省略いたします。お名前だけから、それぞれに無限の思い出を紡ぎだしてください。所属パートは変更された場合もありますので、男女のみ、他界された方も正確を期しかねますので、一部の方しか触れません。ご存知の方は事務局までご連絡いただければ幸いです。

(50 音順)

[S/A]

浅尾 澄子 (1981 入)
有賀 喜見子 (1962 入)
ヴァグネル 滋賀すみれ (1986 入)
ヴァグネル 万代 (1984 入)
佐々木 尚子 (1963 入)
鈴木 千恵子 (1981 入)
関根 幸子 (1962 入)
高野 京子 (1962 入、現団員)
高橋 久美子 (1962 入)
長澤 克子 (1972 入)
中山 絹子 (1978 入)
奈須 英子 (1982 入)
西村 洋子 (1962 入)
橋本 周子 (1966 入)
長谷川 照子 (1962 入)
長谷川 美保 (1972 入)
原山 千恵子 (1967 入)
古澤 澄子 (1965 入)
古屋 千枝子 (1968 入)
本間 治枝 (1965 入)
松村 恵美子 (1981 入)
箕浦 邦子 (1962 入)
三宅 文子 (1982 入)
山崎 千秀子 (1979 入)
山下 淑子 (1963 入)

[T/B]

バルト、ルツィグ 邦ガツ (1981 入)
大村 健二 (1970 入、現団員)
岡本 豁 (1975 入)
小笹 和彦 (1962 入)
加藤 剛男 (1962 入、現団員)
木村 靖 (1980 入)
国吉 三郎 (1965 入)
後藤田 篤夫 (1980 入)
澤田 望 (1990 入、後援会員)
志村一郎太 (1981 入)
周 基 (1989 入)
中村 英雄 (1982 入)
中山 悦朗 (1978 入、98 歿)
西野 正二 (1972 入)
西村 清志 (1962 入、後援会員)
橋本 眞行 (1972 入、団友)
深津 大慈 (1968 入)
古澤 涉 (1965 入)
堀 聖 (1962 入)
前川 忠寛 (1962 入)
松澤 孝博 (1966 入)
松村 敏夫 (1981 入、96 歿)
松村 麦生 (1981 入)
箕浦 正敏 (1962 入、後援会員)
宮崎 茂 (1981 入、95 歿)
森井 眞 (1962 入、団友)
森永 毅彦 (1980 入、現団員)
山下 広之 (1962 入、現団員)



写真上下とも、1991 年 10 月 8 日、目白練習場にて

後列左より (敬称略): 高野京子、岩瀬英子、松本道子、中山絹子、?、三上裕子、竹内匡枝。 中列: 松原典子、橋木純子、?。 前列: 天城素子、出口禎子、油木静子、武内真理子、中村美子、川合満里子



後列左より (敬称略): 吉井修、三浦隆、?、磯谷洸、山口健一、山下広之、千葉光雄。 前列: 松島佐紀男、宮崎茂、大村恵美子、室田悟、松尾茂春 (写真上下とも、「?」のお3人のお名前をご存知の方、また訂正等ありましたらお知らせください)

第 2 シーズン (2012 年 - 2013 年)

参加団員募集

公演予定 (いずれも日本語演奏)

2012 年 5 月 チャペルコンサート (5/20 予定、荻窪教会)

《マタイ受難曲》抜粋 (コラールと大合唱)

2012 年 12 月 第 107 回定期 (会場選定中)

《クリスマス・オラトリオ》前半、カンタータ BWV 71

2013 年 3 月 30 日 (土) 第 108 回定期 (紀尾井ホール)

《マタイ受難曲》全曲

練習スケジュールは《マタイ》を先行

107 定期 (来年 12 月) と 108 定期 (翌年 3 月) の間隔が 3 カ月と短いため、演奏分量の多い《マタイ》については、年度前半 1 月より、先行して譜読みを終え、万全を期します。

5 月、荻窪教会チャペルコンサートに招かれています。この機会を《マタイ》の飯の仕上げに利用させていただき、抜粋で上演します。

6 月より、《クリスマス・オラトリオ》前半、カンタータ BWV 71 の練習を開始し、クリスマスの本番に向かいます。

使用楽譜

(訳詞演奏経験者は、手持ちの楽譜をお使いください。ただし若干の歌詞改訂あり)

1 月より使用の楽譜: 《マタイ》新バッハ全集版を使用。各自で歌詞を書き込みます。「訳詞付きコピー譜」あり (全 306 ページ、実費 1000 円、本番では使用不可)

6 月より使用の楽譜: 詳細は追ってお知らせします。

「参加要項」をご請求ください。

錦秋の山口からご挨拶

柳元 宏史 (団友・元団員)

秋も深まって参りました。教会前の桜並木の葉が、色づいたとたんに散り始めております。東京もだいたい肌寒くなっているのでしょうか。

先日は、月報や《口短調》のチラシ、招待状などご惠贈くださり誠に有り難うございました。経堂緑岡教会の神学生は東京バッハ [合唱団] にご縁がありますね (‘)。バッハの理解が深まると、私は合わせてカントールという存在に関心を持ち、さらにはコラルの作者などに興味を持ち始めることができました。そして突き詰めると、コラル作者の多くが (ルターはいうまでもありません) 牧師であることに驚かされるのでした。その驚きの中心は、皆がそうであったわけではないと思いますが、牧師の深い音楽理解と音楽的素養です。残念ながら現在の神学校では教会音楽について、学識としても実践としても専門的なカリキュラムはありません。サークルのような形でゴスペルや聖歌隊はありますが、牧師として立てられるものとしては、会衆をリードするぐらいの気概で讃美歌を歌って欲しいと思います。かくいう私も初見は全く出来ませんので自戒を込めていますが。

ですから、神学校で音楽のカリキュラムをできない代わりに、東京バッハ入団が必修科目になればどれほどいいかと思えます。そうすれば自ずと 18 世紀の礼拝音楽に目が開かれ関心を持ち、現代の礼拝でどのような展開が可能か考えることができるようになるのではないかと思うのです。比較的真剣な話として。その点、小海 基牧師 [荻窪教会、団員・団友]、松本敏之牧師 [経堂緑岡教会、団友] は優れた賜物をお持ちだと思います。

さて、山口に移ってきて半年があっという間に過ぎました。人生のなかでも濃密で充実した半年であったような気がしています。一つは、当教会の創立 120 周年記念礼拝・記念式を 7 月に行ったことです。前任の先生がだいぶルールを敷いてくださってありましたが、4 月より引き継ぎ、いざ実行する段となりますと大変気を遣いました。礼拝でのメッセージに日野原重明先生をお迎えしたこともその大きな要因でした。しかし、お目にかかるとう本当に気さくな方で、メッセージから私も含めて力を頂戴しました。普段は 50 名前後の礼拝出席ですが、当日は 170 名あまりの方がお越し下さり、教会としてはビッグイベントでした。

もう一つは 9 月に教団の正教師試験を受験したことです。これまで、補教師 (伝道師) でしたが、正教師 (牧師) となるための試験で、実地 2 年を経てはじめて受験できます。主任として遣わされている中での受験でした

ので大きな重圧を感じておりましたが、お陰さまで合格することができました。試されるという経験はなんでも嫌なものです、必要なことであると実感しました。

11 月 19 日には、経堂緑岡に出席している写真家の桃井和馬氏を迎えて講演会を致します。彼独自の切り口が私は好きで、彼の平和や環境への視点に刺激を受けます。現在その準備と、バザーの準備に追われています。しかし充実して仕事ができる喜びは何にも代え難いものです。

当地の住み心地は抜群です。空は広く、夜はしんとして虫の音しか聞こえず、夜空には月と星が遮られることなく輝いています。空気も澄んでいます。教会の敷地も広く、娘 (4 歳) が自由活発に遊び回っている姿をみますと本当に嬉しく思います。それだけに、被災地の子を持つ親の苦しみを思わずにはられません。妻は奏楽を始めて張り切っています。岡山に比べると断然元気で生き生きとしています。

50 曲選 [連載 : 全部おすすめ 50 曲選] が滞っておりますこと、申し訳なく常に頭にひっかかっています。ひとえに自分のルーズな時間管理の為です。必ず書き始めますので、しばらくお待ちください。

なにより、12 月の《口短調》の成功を祈っています。
(やなぎもと・ひろし、山口信愛教会主任担任教師)

*) 筆者・柳元宏史さんは、神学生時代を経堂緑岡教会で過ごされました。最近入団された B 八重樫捷朗さんも、現在同教会で神学生として奉仕していらっしゃいます。

東京バッハ合唱団 < 創立 50 周年記念ファンド >

報告 : 2011 年 10 月 31 日現在

募金達成額 : 960,000 円 (応募 51 人)

ご応募 51 人の内訳	一般	14 人
	後援会員	24 人
	団友	10 人
	団員	3 人

支出 (2011 年 10 月 31 日現在)

合唱団会計補助	500,000 円
演奏会会計補助	200,000 円
後援会会計補助	260,000 円
合計	960,000 円

おかげさまで、現在までの合唱団会計と演奏会会計の赤字は解消されました。心より御礼申し上げます。

*

当ファンドは、「合唱団運営の安定を図り、創立記念事業を助成すること」を目的に、本年 1 月に開設。記念事業の終了する 2014 年末までを募金期間とし、1 口 1 万円から、目標額を 500 万円としています。

引き続きご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。趣旨と詳細を記したパンフレットをご請求ください。なお、ご応募者のお名前は、非公表とさせていただきます。